

# めぐみ厚生センター恵友会 会報

第 263 号

## めぐみ厚生センター恵友会

法人本部 0952-25-2797  
 めぐみ園 0952-34-7722  
 富士学園 0952-63-0107  
 ウイズ富士 0952-51-0063

発行人 鳴原 貞雄

郵便振替 めぐみ厚生センター恵友会

事務局 〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722



## 『内野子供太鼓』

恵友会監事  
富士町青少年育成協議会会長  
今村 宏



現在このチームは、私の見たところ県内で最弱少チームである。元々、内野太鼓の目的は内野地区の融合と地域活性化であり、技術を研ぎ県大会で一番になろうなんてものではない。地区のお祭りや、福祉施設の慰問程度で満足なのである。私の目的は、そのお世話係りだと認識している。なぜなら、私自身、太鼓の知識や技術もないからである。必要な時は先生に来てもらいたい指導してもらう。それで良いと思っている。何とも頼りないリーダーであるが私は子供が好きだ。子供とワイワイやってみると心が和む。子供達は、いろんな所で太鼓を打たして貰うが、富士学園の夏祭りが一番好きらしい。何と案内があった。さあ！みんな集まつて！と号令をかけると、子供達は口をモグモグさせて集まつてきた。その中の一人がはっぴを着ていないので、どうした？と尋ねると、どこ

かで無くしたと言う。手分けして探し、おしるこ売り場の前に落ちていたのでおしるこを食べたか聞くと、「うん」と言つてニッコリ笑つていて。さあ、抽選会が済んだら次は内野太鼓だ！と抽選会のやぐらの上を見たら子供の一人がその列に並んでいる。私は走り寄つて「おい、降りて來い」と声をかけると、その子は「俺はこれを一番楽しみに来ているのに」と泣き出す始末。しばらくして大きな景品を抱えて二コ二コしながら戻ってきた。どうなるんだろうとオロオロしながら内野太鼓の出番を待つていたが、いざ、演奏が始まると子供達の顔つきがキリリと締まり、元気に見事に太鼓を打ちきつていた。私はこみ上げてくるものがあつた。何と素晴らしい子供達だ！と感動するのである。お祭りだから、こんなムードも楽しめるのである。

ある時、とんでもない事が起つた。佐賀県太鼓連盟というものがあつて、内野太鼓も加入している。そこで、太鼓の知識を吸収しているの

である。連盟から県のジュニアコンクールへの参加要請があつた。子供達は部活や塾で、あまり練習しておらず、私は出せないと断つたが、執拗に要請依頼され受けてしまった。コンクールとなるとお祭りみたいにはいかない。技術は当然のこと、入退場の態度からお辞儀の仕方まで点数の対象になる。大会会場に行くと、どのチームも先生に徹底的に指導され、ピリピリしている。我が内野チームは相変わらずノンビリと会場の施設を見て廻つている。大会が始まつたとたん子供達の顔色が変わつた。他のチームの演奏を見て震え上つたみたい。内野太鼓の番になつた。私は客席から見ていた。足元もおぼつかない様子で入場して来た。結果は予想通りになつた。最後のお辞儀のところで「人がいたたまれず走り出で逃げ帰つてしまつた。最後のチームの演奏が終わり舞台前に皆さん整列しているのに内野チームだけが来ていらない。司会者が「内野太鼓は」と叫んでいた。私は走り廻つた。居た。館内にある図書館の小さな隙間にゴチヨゴチヨと固まつていた。皆、うつむいていた。泣いてはいない。だが落ち込んでいた。私は只「ごめん！」と言つた。私のいい加減さがこの子供達にこんな思いをさせている。申し訳ない気持ち。こんな時、何を言つても空々しい。帰りの車の中では一人で自分を責めて責め責め抜いた。

でも、どれだけ変れたろうか？

○会費納入ありがとうございました。

ございました。

（平成二十二年四月七日現在）

敬称略

牛島康之、久住 満  
めぐみ園家族一八名分

富士学園家族一五八名分  
今村 宏、納富勇次

柿木啓子、武市ミツ子

横田須美子、中元寺長

原田邦子、熊谷明悟

梶原千佳子、吉原岩雄

内川商事、平 栄喜

服部京子、楠 満、藤田光彦

岩田寛剛、久我登茂江

吉田太作・志存・貴志・哲

古賀克彦、池田昭正

石動丸正彦、館林成也

横尾蒲鉾、古川美枝子

山領 晃、福地孝子

進藤正幸、城島ノブ子

井口丈男、池田寿弥

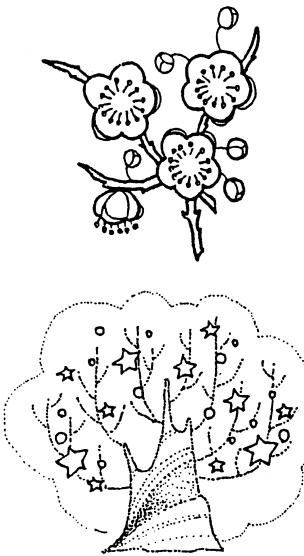
田中哲雄、中島直樹

白浜みゆき、藤田瓦工事店

栗林文男・久美子・裕幸

栗林茂裕、池田醤油

栗林康之・三枝子



### § 恵友会の趣旨について §

（恵友会「趣意書」「会則」より抜粋）

恵友会は、後述の会則に掲げる目標をもつて昭和五十六年、後援会として発足し、めぐみ厚生センターの創立者の意を受け継ぐために、そして現代が求められる開かれた施設、地域に密着した施設づくりに目を向けめぐみ厚生センターをサポートします。

### 恵友会会則（抜粋）

#### 【第三条】

本会は社会福祉法人めぐみ厚生センターの事業に賛同し、その運営、発展及び、利用者の福祉向上を援助することを目的とする。

#### 【第四条】

本会は前条の掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一、利用者との心のふれあい活動
- 二、めぐみ厚生センターに属する学園
- 三、めぐみ厚生センターの運営並びに施設整備に対する経済的援助
- 四、その他、本会の目的達成に必要な事業

に於ける奉仕活動

病む妻の 呼ぶ声ははや 耐えなれど  
かなしみの声 心に聽かむ  
結ばれし 夫婦の絆 たぐりては  
空しさのみの 慕る静けさ  
深き縁を 今更に想う  
圓樂の夜は 遠く幻  
妻や娘と 肩寄せあいし ひとときの  
夜半目覚め 避らぬ別れと 承けつとも

佐賀市在住の、古賀 寛様の作品  
をご紹介します。  
昨年暮れに最愛の奥様を亡くされました。折りに触れ短歌を詠み  
プライベートで作品を皆に配られて  
います。目に触れる度に、ご夫  
妻の深い愛が感じられる作品ばかりです。

### ◇会員作品◇

佐賀市在住の、古賀 寛様の作品

をご紹介します。

### ※恵友会総会のお知らせ※

□日時  
平成二十二年五月二十二日（土）  
午前十一時より

#### □場所

めぐみ厚生センター本部  
(旧めぐみ園園舎2F)  
佐賀市緑小路1の3

#### □議題

二十、二十一年度報告・決算

二十二、二十三年度計画・予算

人事について

他

※詳細については恵友会事務局まで  
お問い合わせください。

#### \*編集後記\*

新しい年度を迎えるセンターの職員も初々しい顔が勢揃いしています。

会員の皆様からの作品を幅広く  
募集しています。

「古き良き時代の継承と、時代  
に沿った新事業、支援へのチャレンジ」が必要になる厳しい時代ですが、若い感性に刺激を受けながら次の世代へバトンを渡すべく、センター内外のサポートであり続けましょう！

（編集局）